

第9回 新宮市文化複合施設管理運営検討委員会 会議概要

日時：平成28年12月19日（月） 午後1時30分～午後4時00分

場所：新宮市人権教育センター

【出席委員】		堀内委員長、 勢古副委員長、関副委員長、 川口委員、船上委員、高委員、山本委員 竹中委員、城庵委員、雑賀委員
【欠席委員】		榎本委員、那須委員
【事務局】	文化振興課	楠本教育長、片山教育部長、畑尻課長、須崎課 長補佐、前地係長、南係長、小林主事、篠原主 事、古川主事
	図書館	道前係長
	シアターワークショップ (TWS)	伊東氏、川本氏

〈開会-委員長あいさつ〉

委員長	新宮市の文化複合施設管理運営検討委員会として委嘱を受けた本委員会 は、基本計画の提言をすることを目的とした委員会である。当初11月を 目途に提言書を提出する予定だったが、12月の末に近い時期まで延び た。この第9回の本委員会をもって提言書の最終審議を行い、年明け早々 には市長に提言書をお渡ししたい。最終の委員会に先立って、本日教育長 がいらしている。事務局には幾多の変更があったので市長から挨拶をして ほしいというお願いをしたが、公務の関係で教育長がいらっしゃってい る。一言ご挨拶をいただきたい。
-----	--

〈開会-市長（教育長）あいさつ〉

教育長	市長から、公務のため出席できないのでくれぐれもよろしくお伝えくださ い、また感謝申し上げる、ということである。委員長からあったとおり、 今年の1月に管理運営検討委員会の委員に就任していただいた。今日まで この1年間大変お忙しい中、視察や市民ワークショップの意見等を取りま とめていただき、この検討委員会で協議していただいた。ありがとうございます。 熊野学センターの先送り、予定地の埋蔵文化財発掘調査、保存協 議等々、残念ながら施設完成までに時間がかかっているが、皆さまのお力 添えをいただき、市民に愛される施設、市民が熊野文化・芸術活動をする うえで誇りと自信を持てるような施設づくり、今後の事業計画等も含めて 検討していかなければならない。市民に愛される施設として基本計画のあ
-----	---

教育長	り方を考えていただいた。本日最終提言について審議いただくことになるが、この1年本当にありがとうございました。来年度から基本設計に入っていくが、また新たに事業計画を検討する委員会も立ち上げる予定である。その折にはご協力をいただくことになるかと思うが、今後を含めてよろしくご協力をお願いしたい。本当に健闘していただいた。ありがとうございました。
〈議事-1 検討経過の振り返り〉	
委員長	・ 前回の委員会以降、副委員長の両氏には原案修正意見等の取捨選択について何回も議論を行っていただいた。また、シアターワークショップにはワークショップだけでなく、委員会進行の基礎資料、全国的な資料、委員の学習意識を高めるという側面からも非常に貴重なサポートをいただいた。今までの経過を踏まえながら皆さんの意見を取りまとめる。提言書で両論併記が必要なところは両論を書いた。シアターワークショップと事務局で、この期間に2回の意見収集と取りまとめをした。2回もしなくても良いのではないかという議論もあったが、多くの委員の言葉、修正意見を包摂するような形で提言書の最終案がまとまったと感じている。それでは前回の委員会以降の経過について事務局から簡単にご説明いただいて審議に入りたい。
事務局	・ この提言書は、前回10月4日の委員会以降に事務局・シアターワークショップで素案を作成したのに対して、正副委員長で修正いただいたうえで皆さんに郵送し、ご意見をいただいた。そのご意見を反映したものをこちらで素案の修正をして素案3を作成し、また正副委員長会議で内容検討したものを、委員のみなさんに11月22日にお送りさせていただいた。そこで頂いたご意見をもとに、先日12月6日に正副委員長で内容の確認を行い、再度、素案の修正をしたものを今回出させていただいた。
委員長	・ ではさらに資料についてシアターワークショップより説明をいただく。その後、最終文案に至る内容について委員に諮って、最終提言書としたい。
TWS	・ 資料説明を行った。
委員長	・ 実務的な会議の記録、事実関係は非常に大事なことなので改めて経過をまとめてもらうようお願いをした。シアターワークショップから全体としてここに至る経緯まで、コメントがあるか。
TWS	・ 本当に丁寧な審議を重ねていただき、きちんと経緯を捉えたまとめになっていると感じる。これだけ建設が進んでいない状況の中で審議をしていく難しさもあったかと思うが、施設を造るということはハードをつくることではなくて、まずはできあがったあとどう運営していくのかということがあってこそそのハードであり、むしろ良い方向に動いたと感じる。まとめに

TWS	あたって各先生方のご意見をお出しいただき、ありがとうございました。
委員長	- 各委員の意見、終わったあとでシアターワークショップからも最終のコメントをいただきたい。 - 今回文化振興課には実務的にタイトな日程で、細かいことまでかなり無理をお願いしてご協力いただいた。お手元の資料1で2回目の各委員ご意見の何を取り入れて何を取り入れなかったのか、その理由を最終段階で協議したあと、対照表で各委員に総括的な感想や、これからの希望、自分たちはどういう関わりを今後していきたいかという思いをお話しいただきたい。まず提言書案についての審議に入りたい。 - その前提として、これはあくまで管理運営の基本計画の提言であって、実施計画の提言ではない、確定ではないということをまずご確認ください。例えば会場使用についてワークショップで出たご意見、こんな考え方もあんな考え方もあると書いてあるが、最終的にどれを取るかは実施計画の中で今後詰めていかなければならない。シアターワークショップからのコメントにあったように、新たな文化複合施設を運営するにあたって考えるべき項目についてはほぼ網羅をしている。 - 最終的に、施設はいつオープン予定か。
事務局	平成32年度末、平成33年3月の完成、平成33年度中にオープンを目指して進めている。
委員長	市民会館の老朽化、耐震の問題があり、市民会館は壊した。それからまだ5年、今年度含めて5年の準備期間がある。新宮市の文化活動への影響もあるが、この基本計画を踏まえてぜひ行政や多くの市民、議会にも議論をいただいて、基本計画から実施計画に入っていきたい。この基本計画の提言が終わった以降何をどのようにしていくのかということの展望も含めて、今回基本計画の提言書ということで考えたい。
<議事-2 提言書素案④について>	
委員長	- 資料1をベースにして、各委員からの2回目の意見について取捨選択とその理由が何かという協議をしていきたい。歴史的な伝統や市民力・文化力がある新宮市で、行政の市民参加のシステムや市民意識の醸成と合わせてこの取り組みをしたいということが頭にあったので、行政担当課も含めてかなりご無理をお願いした。国の審議会、県や市でもこれほど丁寧に行う例は少ない。市民参加の経験や蓄積、どの時点でどのように関われば、その施策に対する市民のオフィシャルな意見を提案、浸透させることができるかということを中心にやってきたため、ぎくしゃくした表現もあるかと思うのだが、それはそれで新宮らしさということにしたい。 - 各委員からの提案のうち、理由を書いてくれない場合もあった。選択する

委員長	ときに理由を書いていただけると、取捨選択がしやすい。そういう慣れ・不慣れも、新宮市でこの文化複合施設に対して市民参加の委員会をつくってやってきた、一つの成果と思っている。そのような前提でお聞きいただきたい。それでは、全体を通してどのような形で最終チェックが入ったかということをご説明いただく。
事務局	資料の説明を行った。
委員	- 異議のないところは2回素案確認を行っているため、最終の変更時ではスルーしたい。遠慮なくご意見をいただいて構わない。では審議に入る、資料3の修正案のナンバーごとに検討する。ナンバー1についてはよろしいか。異議があったら手を挙げていただきたい。この修正でよろしいか。 1の1はこの通りとする。2、「市民の声を反映した」を「市民に寄り添った」に変更した。3、これは実情のことで誤っていたので直した内容である。4、これも出典が違っていたので修正している。ここまでは異議なしとなった。 6については説明の必要がある。5、6、7は。正副委員長会議で判断している。第1回目のご意見で、「学校」を前に持って来たらどうかというものがあった。絶対的矛盾でない限りはすべての意見を吸収しようという方針でそれを取り入れたが、ほかのところで学校が後ろに来る文章があったため、それに基づいて2回目で変更した。これは学校をおろそかにしているわけではない。市民全体の文化施設ということで元の素案通り学校は後ろでも良いのではないかという判断をした。なぜ学校を後ろに戻したか、出典を確認する。
事務局	10 ページの3-1である、ここでもともと学校が後ろにあったためである。
委員長	資料1の10 ページの上から5行目、「商店街、学校および市内他施設との連携」という言葉がある。これをベースで使っていたので、第1案に対して学校は後ろでも良いのではないかというご意見が出た。委員の意見が分かれたので、これを根拠に2回目の修正案を正副委員長会で取り入れた。
委員	1回目のやりとりで学校を前に持ってくる意見を出したのだが、やはり学校を巻き込んで上手にやらないと何もかもうまくいかないように思う。今回の順番入替について「次世代のこと、即戦力、持続性等を考えると、題目の内容も踏まえ順番が違うと思います」と理由が書かれているが、即戦力という意味でもまず学校で情報を下して子供に伝える、それがそのまま親に伝わって即戦力となっていくことは十分考えられるのではないか。最初の委員会で、文化ホールが建つということがあまりにも市民に知れ渡っ

委員	てないと述べさせていただいた。ワークショップを開くにあたって、学校でチラシをまく等の取組みを行ったことによって、それについて家で子供が話すことによって親にも伝わっていく。学校を中心に商店街や既存の施設がサポートに回るという形で考えていかないと、これから永続的に考えていくのが難しいのではないかと感じる。既存の施設、商店街、ボランティア団体など、既存の様々な施設があるが、これからのことを考えていくと、どんどん高年齢化していくのが目に見えている。子供を巻き込むことによって、そこへ新しく入ってくる子供たちが増えてくる。それを考えると、学校を第一に考え、学校を巻き込んで物事を行うということをもっと重要視したほうが良いと思って、学校を第一に持ってきている。
委員長	その意見は1回目の修正の時に十分理解して取り入れた。2回目の修正は理由の文言だけでは不十分かもしれないが、市民の施設であるということと、学校教育施設ではないということがある。10ページの3に、「商店街、学校および市内他施設との連携」という表現がベースで入っていたので、正副委員長で話をして変えた。基本計画の段階で1番前にあるから1で、3番目やから3でということではなく、学校も含めて考えるということで2回目の修正案を正副委員長で取り入れた。今回のご意見についても発言をいただきたい。
委員	- 今まで様々なイベントに携わってきた。そしておやこ劇場という性質上、学校にも毎回協力を求めて今までやってきた。その経験も踏まえながら、次世代を育てるということはとても大事であり、学校にお知らせがいくと本当に知れ渡る率が高いと知っている。しかし、学生の本分というところに両親の意識もいっている、子供たちはとても忙しく、そのイベントのことだけを考えて、そこを中心にするのはなかなか難しい。一生懸命協力を求めて子供自身にその意思があっても、クラブ活動や試験があり、そういうことはもう外せない。そうやって外せないところに抜けた穴をどうするかという問題が出てくる。 - それともう一つ、学生と一緒にやってやるのはとても素晴らしい事だが、そこを指導していく、今までやった経験で伝えていくのは大人である。大人の経験というものを大事にしていかないと次世代につなげない。今やっている人、今までやってきた人の経験や、これからの工夫、そういうことは学生ではとても追い付かないところがある。そのためには大人がまずしっかりしないといけない。商店街、様々な団体も今まで一生懸命やってきた経験を大切にしながら、温故知新で行っていく必要があるのではないかな。その温故知新の言葉の順番通りに並べている。三つ並べて書いてあって、最初でないといけないということもない。みんな一緒になってやると

委員	いう点ではこの並びでいいのではないかと感じた。
委員長	これは序列を決めているということではなくて、基本計画の段階で、まちづくりの拠点でもあるし、観光ということもある。順番に固執しないということであれば、やはり学校が最初でも良いと感じる、という部分もあるか。
委員	- そういうことである。固執しないのであれば、最初に学校持ってくることにしたい。学校を後ろに持っていくと意識が薄くなると感じる。序列の問題ではないということであれば、例えば商店街・文化団体・ボランティアの団体など、既存の団体は2番目、3番目であっても中心になってやってくれると思う。学校が後ろに回ることによって、学校への意識がどうなるのかというのが、どうしても気になる。 - 何度も繰り返しになるので、決を採っていただきたい。学校は協力が難しい面もある、育てていくという準備が必要でもある。それから各学校に膨大な図書があるが、全く利用されてないのが事実。だから学校という理念については、市民の会館を造る、市民の図書館を造るのであるから、その市民の中に高校生の活動、中学生の活動というものを加え込んでいったら良い。新しい市民会館については、人を呼び起こしたいという理念もある。順番でないというならば、住民の中にも学生も含まれている。委員のおっしゃる気持ちは分かるが、学校は後ろで良いと考える。
委員長	ここで時間を取るのも問題だが、大切なことなので協議したい。決を採るか。もしくは正副委員長に一任していただきたい。
委員	順番の問題ではないことは理解するが、順番は大事だと思う。結果的に学校が後ろに回ることによって構わないが、ここへ書かれているような理由で学校が後ろに回るのは良くないのではないかと感じたため、ここで意見を述べた。
委員長	- もちろんそれはありがたい。1点だけ補足すると、今後実施計画を策定する時に学校との関係を具体化していかないといけない。今日は基本計画なので、各委員の議論や意見の伯仲を踏まえて、これは正副委員長一任ということで作らせていただきたい。 - 続いて8・9・10・11は異議なしで良いか。では採用とする。 - 市民の意見は市民の意見で、図書館は図書館で内部的にも議論をしていただきたい。あくまで基本計画なので、実施計画を作るときに学生の自習室や時間などの議論も入ってくる。利用者の利便を考えて共通性と個別性をどう開館時間に反映したら良いかは、実施計画での検討課題ということにしたい。 12、これは採用したがよろしいか。「社会人や学生」を、「子供からおと

委員長	なまで誰でも」に訂正。１３、１４、１５、これも異議なしで良いか。では採用とする。 ・ １６、１７まで同様。１８も項目を別にする事で図書館を削除している。２０は先ほどと同様。２１は正副委員長会でも議論をしたが、この基本計画では指定管理か、直営かを決めて提言はしないこととした。運営主体についての具体的な検討は、実施計画マターであるという認識である。２２は国語的な問題である。２３、２４は学校等の順番についての協議である。２５は不採択だが、継続するという能動的意思を生かすということで、原案通りとした。 ・ もっと精査しようと思ったら出てくるところはあるが、学校を第一にするほうが世代的にも学校という特性からも大事だという意見もよく分かる。しかし市民文化施設として、学校は学校の施設で体育館や図書室があって、文化施設の中心の担い手の一翼であることは大事だが、学校が１番というのは断定せず基本計画として表現を工夫したい。実施計画の段階で学校と文化ホール、文化複合施設の関係はどうなのか、商店街と文化複合施設の関係はどうなのか、観光のまちづくりと文化複合施設の関係はどうなのかということを詰めていく。基本的に了解いただいたということで、この提言書について本委員会として一部修正を加えたうえで、正副委員長一任とさせていただく。これで新宮市文化複合施設管理運営基本計画の提言案の案を確定して良いか。 ・ また交付金の延長について事務局から説明を頂きたい。
事務局	・ 市と県の窓口、そして国土交通省と協議し、正式な文書の取り交わしはないが、国土交通省の担当者からは平成３２年度まで交付金の対象になることについて柔軟に対応していただけるという話をいただいた。今出している計画を２年延長するのか。もしくは計画を平成３０年で切って第２期計画として計画を提出して平成３２年度までになるのか、これは今後国土交通省との交渉になる。平成３０年度までまだ期間がある中で今すぐに文書を取り交わすということはないが、期限が近づいてきた頃に期間の延長、もしくは新たな計画を提出して国土交通省と協議していく。
委員長	・ 今回市の財政的なことで議会からも懸念の声があるが、最大５割補助金が出るのは大きな話である。その状況の中で文化複合施設をつくっておかなかつたら未来永劫つくれないのではないかと心配している。予算がなんとかクリアできるということを前提に運営スタイルも考えていきたい。 ・ 基本設計はかたまったのか。
事務局	・ 来年の夏頃に基本設計に取り掛かり、平成２９年度から平成３０年度にかけて基本設計、実施設計を行う予定である。

委員長	- この建物の基本設計に至るプロセスに併せて、管理運営も具体的な管理運営の実施計画を作るという作業が残る。今回は目次で項目ごとに提言したというのは、行政内部の庁内検討委員会や議会、市民にも公開されることなので、文化施設を造るときにこういう色々な側面で考え、具体化するためにもっと多くの意見を集めていくための材料にしようという意味がある。 15ページでは運営主体などデリケートな部分については、建物の基本設計、実施設計の進捗状況にフィットする形で今後も市民の意見を取り入れてほしいと書いている。あと実質2年程度で運営主体を決定するのであり、1年半以内には方向性を固めないといけない。建物の基本設計、実施設計、建築後に開館の行事をどうするのかということも含めて、基本計画をさらに具体化する管理運営実施計画の取り組みが今後の課題となる。
＜議事 3- 今後の予定について＞	
委員長	本日お配りした資料4をご覧ください。まず設計建設工事については来年度、平成29年の7月頃から基本設計、実施設計に入り、平成30年度の8月に実施設計完成を目指している。その後、建設については平成31年度、平成32年度の2カ年を予定している。検討委員会については本日の委員会でいったんの一区切りとさせていただき、提言書を市に提出後、市で管理運営の基本計画を作成する。その後、基本設計の状況を見ながらそれに合わせて今後実施計画についてまた皆さんに検討をお願いしたい。回数については6回程度の予定である。期間を平成30年度の12月としているが、これは余裕を持った期間として考えている。市民参画については、来年度からこの文化複合施設の管理運営に関わる市民組織づくりに向けて踏み出したいと考えている。平成29年度については、先進地事例の紹介などの市民講座を3回程度、仮に仲間づくりワークショップとしているが、市民の方に参加していただいてプレイベントについて検討するワークショップも3回程度実施する。それから始めて仲間づくり、組織づくりに関わっていただく方をつくっていききたい。その後、平成32年度プレイベントの計画作り、開館に向けてのプレイベントの計画作り、またその後のプレイベントの実施と併せてその活動から市民参画ができる組織づくりを進めていけたらと考えている。開館前の平成32年度については実際に関わっていただく市民の方への育成講座を開催する。委員の皆さまについては今後の実施計画についてもまた検討をしていただき、また、市民講座、仲間づくりワークショップ、これも参加していただき、プレイベントの実行委員会のようなものにもご参加いただけたらと考えている。

事務局	実施計画については、基本的に同じ委員で検討していただきたいと考えている。あくまでも基本計画ができたうえでの具体的な内容となるため、このメンバーのままだと良いと考えている。また、今後開館までに向けての支援は、シアターワークショップをお願いしている。具体的な契約変更等は予算の関係もあり今後になる。
委員長	公募委員も含めて同じという認識で良いのか。
事務局	そのように考えている。
委員長	- その辺りも含めて各委員からご意見をいただきたい。他市の例では、公募委員をもっと増やしたいという要望もある。報酬等の予算的な措置が伴うので難しいかもしれないが、ボランティア的に参加してもらう等の工夫も含めて各委員のご意見・ご提案があればいただきたい。 - では各委員のご意見の前に、まずシアターワークショップからコメントをいただく。
TWS	- 資料４でオープンまでの大きな流れが示されているが、私どもシアターワークショップの契約は単年度契約ではなく、当初からオープンまでということで契約をさせていただいている。これほど早い段階から管理運営計画を詰めている例というのは非常に少ない。なかなか建物も決まらない中でここまで来ているが、やはり組織をどうするかが非常に大きな問題だと思っている。 - 指定管理者制度というのも、もともと運営されている施設、既存の施設をどうするかというところから始まったルールであり、新築についてはいろいろと問題が多かったという点が１点、また文化施設については指定管理制度というのはそぐわないのではないかという議論も多くなっている。実際に他の事例の中でも全体の傾向としては指定管理にしていく実績は増えているが、一方では指定管理をやめてもう一回直営に戻す、指定管理の業務の中でも維持管理と貸館を行うが、事業についてはもう一回行政が直接実施する、あるいは業務委託で専門業者に行政が直接委託するという傾向が増えてきた。特に今回の施設のように複合型の施設では、行政が直営で運営する場合に、市長部局でやるべき内容と、教育委員会の内容が混じっている物件になる。私見だがこれは市長部局で取りまとめをしたほうが、できるだけ境を外していく、敷居を低くしていくことが出来るのではないかと考えている。これも行政と相談していかなければならない内容であり、特に今回いただいたこの資料は、検討委員会の提言書になる。シアターワークショップとしては行政から業務委託を受けており、今度は新宮市としての管理運営基本計画を作らなければならない。委員の皆さまの非常に貴重なご提言いただいているが、

TWS	市がこれをどこまで咀嚼し、市の計画として表に発表できるかというところについてはもう一つのハードルがあると思っている。いずれにしても、今の段階で管理運営の基本計画がまとまったということは非常に喜ばしいことである。各委員は実際にほかの施設を見ていただくなど、かなり勉強を重ねていただいております、次年度以降も非常に有意義な委員会運営ができると考えている。
委員長	・ 新宮市の課題はどのようなものだとお考えか。
TWS	・ 市民はとても良い動きをしていると感じている。ワークショップも高校生たちがとても熱心で、種はたくさんある。これどう育てるかというところにかかっていると考えている。
委員長	・ 教育長へお聞きしたい。市長に提言書を出す、これはあくまで検討委員会の提言書で、市としては提言を受けて市の管理運営の基本計画を策定される予定か。
教育長	・ その通りである。
委員長	・ 基本設計の提言書を提出し、庁内委員会が受けた時に、行政としての方針を明確にされた文章はできたのか。
事務局	・ 基本設計の提言書を受けて、基本設計という成果品に生かした。特に基本計画の提言案の言葉をとって新宮市が発行する冊子は作っていないが、基本設計の成果品の中でそこを生かしている。
委員長	・ 市民の委員会なのですべて行政の決定文書になるわけではないということは熟知している。しかしこの管理運営の基本計画については、われわれの提言を受けたあと庁内で検討していただき、市の基本計画として文言化していただくように本提言書内でも要望している。
委員	・ 2月に基本設計の提言書を出した後にさまざまなことがあったが、茅野市民館や塩尻市図書館を視察し、今後の運営の参考になった。先ほど委員長から課題という言葉があったが、やはり建設が5年後になったのは残念なことである一方、このように立派な管理運営計画ができたというので私は非常に満足している。今後は早く運営主体を決めていくことだと思う。それにはやはり今、文化活動ができなくなっている人たちの各サポーターを分野ごとに募集して、準備委員会というのをつくってもいいと考えている。市民の中には施設建設をまだ知らない人もいるが、この5年間の間にこれから盛り上げていけば良い。毎朝、学校の近くに体操に通っているが、市民会館が取り壊されて小学校の建物がほとんど壊されている。見るたびにやっとなここに建つのだというワクワク感・ドキドキ感があり、とてもうれしく思っている。この5年間は一生懸命市民一体となって、実施計画に向けて取り組んでいければ絶対いいものがで

委員	きると感じている。周辺の商店街も待ち望んでいる。今建物が壊されてようやく建つという気持ちが市民の中にわいているのも事実である。一緒になって取り組んでいけたらと思っている。 残念ながら今のところ、この文化複合施設に関してはうまいこといいないという思いが非常に強く感じられる。その原因の一つとしては、市民自ら考え、自ら汗を流していろんなことを勉強してやってく必要があると感じている。そんな中でやっぱり一つこだわりをもってやる、広域を論点の中心に据えて、例えば田辺から松阪、津辺り、広域の中で新宮の文化複合施設をどう運営するのかという目途、また例えば関わりとして最低 10 年間は取り組みを行っていく等は、文書にする中で具体的なことを提言していく必要があるのではないかと思います。人輝き文化奏でる都市。これはずっと前から掲げられているが、もう少し具体的にしていかないと、かつての熊野の文化を復活させるのは難しいのではないかと。そして実施計画の委員の件は、公募の委員の方がいろいろな形で参加してもらえよう、ぜひ仕事が終わった時間帯に委員会をやっていただきたい。
委員長	- 副委員長兩名について、運営の近くで見ていただいたので、ご尽力いただいたお礼も兼ねて各委員への参考として先に発言をお願いした。 - では各委員から順にご意見をいただきたい。
委員	- 最後の 16 ページ、「建設予定地からの重要遺構」とあるが、「遺跡」のほうが良いのではないかと。遺物も出ているので。 - この提言書がこれから、重く受け止められて息づいていけるのか、気になっている。先ほど話に出ていたが、基本計画も 2 棟案にひっくり返った経緯があり、行先不透明な気がしてしまう。3 ページを見ていると、熊野文化のところで「3 機能が一体となった」、下のほうに「熊野関連の研究拠点とする」という表記が出てきている。これを見ていると改めて感じることもある。ありがとうございました。 - 私が新宮市に関わり出したのが平成 21 年である。7 年ほど前、当時は基本構想の時代だった。隣町に謡曲で有名な高砂市というところがあり、その図書館は紆余曲折があった。計画を発表したらその土地が駄目になった、次に計画を出したら市長が亡くなってしまったなどである。そこから相談を受けており、それと同時並行する形で新宮市に関わり出した。その高砂が 3 年くらい前に新館を建てた。これがなかなか面白い図書館になっており、先を越されたなという思いがある。今回の管理運営基本計画については、2 回の校正をいただいたのはなかなか良かった。2 回目に 1 回目に直した部分を活字として見ることができた、これが大きかった。その中で比較表の 12 について、「社会人や学生」を「子供か

委員	らおとなまで誰にでも」と訂正した。社会人と学生と書いて、世の中一般の人ということを想定したと考えられるが、この感覚がよくないと感じて、「子供からおとなまで誰にでも」と提案した。学校と学生は違うのだという思いもある。最近の市立図書館は軒並み比較的利用席が少ない。図書館は資料を利用する所、資料を楽しむ所、資料を利用してそれを成果に結びつける所。利用する席そのものを貸し出す所ではないという考え方である。資料を通じて奉仕する所ということを思っており、それを表したと理解いただければと思う。 ・ 取り壊された市民会館について、教師としては20年間ほど市民会館で舞台、演劇をさせていた。55名かける12クラスあったので、市民会館を2日間使って文化祭をやった。機材はほとんど新宮高校の物だった。思いは強くある。図書館については、仲之町辺りにあったのを覚えている。現在は図書館長であり、図書館のことを言いにくいというのがある。決めたものを受け止めて、それをどう仕事に生かしていくかという立場であろうと考えている。佐藤春夫記念館が建った時のデータを取ると、最初の年に市民10人に一人が来た。大賑わいで人を雇い過ぎ、2年もたつと、一回りしたら展示品変えてくれているのに行ったことがあると行って行かなくなる。旅行客も写真は撮っているが、三百何十円は払ってくれない。人輝き文化奏でる都市と掲げても、今本当に若い人がエネルギーを持って活動できるのかという疑問もある。受験戦争と就職戦争の中で結局落ち着いて本を学んで読むということができない世の中になっている。ネットは叩いたら答えが出てくる。辞書でも3種類ほど引けば違う意味が書いてあるのに、データを処理して答えが1個と思い込んでいる子供たちが本を読むわけではない。だからこそ学校との兼ね合いは提言していく。そういうことも一つの図書館としての動きがあらうと思う。今後また続いてということがあれば、具体的な人の集め方も課題と考えている。学生と書いた場合、教育委員会の管轄は小中までだが、養護学校にも本がある。新宮市の管轄は幼稚園、小学校、中学で、あとは厚生省関係の保育園と、高等学校は県立という仕分けがある。お願いはできるが管轄できないという部分が出てくる。今、新宮市が抱えている問題は、ここから広がっていくことはあっても少なくするということは事実上無理だと思う。しかし、少しずつでも持ちこたえていくという立場でお互い手を握っていかなければと感じる。ネットの問題を考えないで図書館、本の貸し出しの問題を語るようなことにはならないようにしたい。皆さんと一緒に勉強したいと考えている。ありがとうございました。 ・ 基本計画の時から関わっており、本当にたくさんの試練があった。そし
----	---

委員	て、その時その時、本当に一生懸命、その時点での最良のことを考えていつも意見を言わせていただき、そしてまた何か試練が起こった。いつもこの気持ちに折り合いをつけることに力を入れて今までやってきた。まだどのような複合施設ができるか具体的なことが見えないところで管理運営に入ったが、この管理運営の実施計画というのが、本当に一番大切な正念場だと考えている。これは何があっても揺るぎないものができると感じている。建物がどうだろうが、担当が代わろうが、何をしようが、ここだけはというものをきっちりと作れたらと思う。そのためにはもっとたくさんの市民の意見をもらいながら、きっちりより良い方向にまとめてみんなで進んでいけたらと思う。これからもしょろしくお願いいたします。 今年の1月に管理運営検討委員会に公募で参加させていただいた。新宮市という枠の中で見たら自分の仕事は異色な仕事である。いろいろな仕事も経験して、たまたまダンスが体に合って、生徒が沢山集まってくれた。それに加えて裏方に興味を持ち出して、音響、照明、舞台の進行、舞台の大道具、そういうものを全般的にやってきた。これから新しくできる舞台というものがどういうふうにできていくのかということがすごく気になって、応募させていただいた。本当にいい経験ができたと思う。これから舞台・大ホール・小ホールもできて…となってくるが、おそらく2020年以降一般照明といわれているものがほぼ使えなくなってくる時代が来る。その中で今現状こういう実施計画を立てているのはとても大変なことだと思う。これからどんどんLEDに切り替わっていく中で、それをどうまとめていったらいいのか。自分自身は図書館に行ったことがなかったので、正直なところ未知のゾーンに入ってしまったなとも感じた。本当に図書館に関しては何も言えないが、ホールに関してはやはり場数を踏んでいる分だけ、こういうふうにしていったほうがいいのかと思えるようなものをまた今から次の計画までにいろんな所を回ってみて、聞いて、新宮に持って来て、より良いものをできるようにしていきたいと思っている。 この1月からこの委員会に関わらせていただいた。最初この公募に申し込んだきっかけが、自分なりに何かできることがあるのではないかと考えたことであつた。その中でワークショップに参加した子供たち、学生たちから、もうワークショップはないのかという声が上がっている。その中で一人の女子生徒は、自分はあまりにも図書館のことを知らないということで、親と一緒に泉佐野市、大阪市、和歌山市、田辺市とずっと図書館回りをしてきた。ある生徒は、先日土日に神倉神社と速玉大社に来
----	---

委員	られる観光客 67 組の方からアンケート調査を取って、新宮市内に泊まるのか、どうして新宮市に来たのか、何回目なのか等を聞いて回って、そういうアンケート調査を行って今後のワークショップがあるなら生かしていきたいということを言ってくれている。最初はワークショップがあるから行こうと声掛けたのがきっかけだが、ワークショップがあるならもっと役に立てるはずと前向きになってくれているのがすごくうれしいと思う。今後も、ワークショップ等がある中でそういう子供たちが一人でも二人でも増えていって、この市民参画の地域に参加してくれるような子を育てていければと考えている。いろいろと発言させていただきましたが、今後もよろしくお願いいたします。 まず初めて委員になって、いろんなことを勉強させていただいてありがとうございますというお礼を先に言わせていただきたい。ホールに関しては、やはり新宮市だけではなく、それを待ち望んでいるのはおそらく尾鷲くらいから田辺市内までの広域になる。でそこに大きなホールや劇場がない。そのこともいろいろ考えて、広い範囲でこれから考えていっていただきたい。そしてやはりこれは市の総合計画の一つなので、地域のことをすべてに還元できるようにする施設にすることが大切である。実施計画が始まった時に、新宮市にはそれこそカラオケクラブから始まって、絵画、書道など様々な団体がある。そういう団体の方々を次実施計画になったらどんどん取り入れていくことで、市と住民との輪を取って、本当の意味での協働になると感じる。自分自身が卒業生で、新宮高校同窓会という大きなグループもある。かなり大きい組織で世界的に活躍している方もいる。そういう団体とどんどん関わって行って実施計画の中に取り入れていただくことで、少しずついろいろな団体が動いて現実的になってくる、公共施設とは自分たちのもので自分たちがつくっていくものという意識が上回っていくと考えている。行政側に要望したいのは、教育委員会だけで仕切るのではなく、もっと大きな範囲でやっていただきたい。大切なのは、利用していただくということだと思っている。
委員長	- 各委員からありがとうございました。 - 実施計画はメインだが、公募委員を 10 人、20 人増やしたらいいということではない。しかし、たくさんの人が関わってもらわなかったら広がらないということは事実なので、市民参加の仕組みを行動的、複合的に考えていくということも大事になる。そして継続性。環境や人をつくっていく努力は委員として持っていただきたい、行動する委員に、批判から提案へ、提案から行動へとまちづくりでよく言っている。中には、こう

委員長	いう委員会とは別に市民が自主的に文化会館の運営を考える会などを立ち上げて、市と交渉する、意見交換会で市民参加の委員会の委員が別の市民から突き上げられるような経験もしてきた。その結果、すそ野が広がり、たくさん関われば関わるほど極端な意見が現実可能な方向に、行政がすべきこと、施設がすべきこと、市民がすべきこと、その役割と責任が成熟していったと感じる。 - 文化複合施設をつくっていく上で、市民参加の委員会も一つの組織だとすれば、五つの原則を書籍から引いてお伝えしたい。一つはニーズの代理人として収益を再投資し続ける。二つ目は、最大ではなくて最適を目指す。三つめは、一步先の視野を持ち、半歩先の事業を提供し続ける。四つ目は、顧客を分類し最適な価値を提供してビジネスモデルを確立する。これは地域の仕事おこし、起業のことも関わっている。五つ目、消費者ではなく市民を育て、活動ではなく仕組みを作る。また、人材育成の時の12の力も掲げている。1つは、目的、目標を絞る力。2番目は調べる力。3番目、ニーズを確かめる力。4番目、会議で決める力。5番目、対策を考える前に原因を確認する力。次、事業を振り返り申し送る力。事実に基づいて見通す力。計画する力。協力を募る力。体制を整える力。自主財源率を高める力。共同し、仕組みを組み立てる力。文化のまちづくりは人づくり。ホールの運営も人で決まる。 - 市民力を育てる。文化のまちをつくる市民を育てるという時には、市民も専門性を高めていかないといけない。文化ホールの基本計画や基本設計だけではなく、行政は市民が市長を選ぶし、議員も選ばれる。市民は有権者であり、税金を納めている納税者であり、経済を活性化する消費者であるから、市民と行政のつながり力を作っていくきっかけにする。新宮市で改めて驚いたのは、水野藩は三万五千石。この地域で三万五千石の藩があった。新宮市の持っている歴史や伝統、ストックを生かして、まちづくりをする。文化ホールができたからといって、すぐ商店街が活性化するというふうにはならないが、連携しながら仕組みを作っていくチャンスである。行政がいろいろ努力していただき、こういう委員会をつくったことがつながれば、新宮の施設造りだけではなく、様々な行政分野のまちづくりが発展すると感じる。行政の職員は、市民の財産である。新宮を住みやすい文化豊かなまちにするには、市民も行政職員も切磋琢磨する雰囲気を醸成していけたら、いい委員会になると考えている。 - 実施計画についてはシアターワークショップからアドバイスいただきながら、それぞれの時期の組織や委員会や事業をどう組み立てていくのか。委員一人一人がいろいろなセクションのパートのリーダーになるような
-----	--

委員	実施計画の委員会のやり方については、皆さんの意見を聞きながら少しアクティブにやりたい。良い事例や提案があったらまた教えていただきたい。本日は、あくまで基本計画の提言書であり、緩やかに委員会で一致できたことを喜びたいと思います。皆さんのご意見ありがとうございました。 事務局からのご挨拶をいただきたい。
事務局	皆さんこの１年間、管理運営基本計画への提言書案の作成、お忙しいところ都合付けていただいて、積極的にご参加いただき、また、多種多様なご意見をいただいて非常にいい提言書案にさせていただいたと思っている。このあとシアターワークショップと協力しながら基本計画の策定、そして来年度から実施計画に向けての様々な取り組みが始まっていくが、協力いただいている委員さんにはまた引き続き施設竣工、またそれ以降までも協力いただきたいと思っている。今後とも引き続きよろしくお願いいたします。ありがとうございます。
・ <議事-3 その他>	
事務局	本日議論いただいた内容で委員長一任としていただいたが、この提言書について内容を固め、市に提言書として提出するのを正副委員長さんをお願いする。１月１０日に市長に提出する予定で進めている。
委員長	- 以上をもって第９回管理運営検討委員会の基本計画案の提言の最終回としたい。副委員長には事務局の打ち合わせ、あるいは提言書のチェックにも関わっていただき、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。 - 以上をもって第９回の委員会を終了する。

以上